

■開催日時

令和6年6月28日（金） 午後7時00分～午後9時00分

■開催場所

丹波篠山市民センター 催事場1・2

■出席者

委員 11名

酒井克典委員長、森正樹委員、吉良勉委員、山田俊朗委員、雪岡のり子委員、

松浦由美委員、畑弘恵委員、西尾雅子委員、山本幸雄委員、松本修委員、濱口杏梨委員

オブザーバー 4名

乳原正文丹波土木事務所所長補佐、清水夏樹農都環境政策官、

九鬼雅寛地域整備課係長、田中和哉社会教育・文化財課長

事務局 3名

酒井誠商工観光課長、岡佳巳商工観光課係長、野口翔大商工観光課主事

■欠席者 2名

小山雅充副委員長、西村好太委員

■傍聴者

0名

■会議の要旨

以下のとおり

1. 開会

2. 委嘱状の交付

松本修委員、濱口杏梨委員に委嘱状を交付

3. 委員長あいさつ

4. 協議事項

(1) 桜ビジョンの策定に向けた検討

「市民みんなで作るオンリーワンのサクラの里」という理念に基づき
目指す将来像について3班に分かれて意見を出し合った。
各班の意見は別添のとおり。

各委員の意見の要約は以下のとおり。

- ・自分の住む町や地域が外国人などで賑わうのはワクワクする。
- ・「桜」は季節が限定されるイメージであるが「年中を通して楽しむ」ことは良いキーワードとなる。
- ・子どもをターゲットにすることが将来像につながる。
- ・地域の名木や地域にまつわる伝承などをQRコードで紹介すれば市外、県外、外国の人も共通して情報を知ることができるので実現したい。SNSの活用や丹波篠山国際博を通じた発信もできると良い。
- ・親から子、孫へ思い出をつないでいけるオーナー制度は魅力。
- ・桜の手入れや管理などは自発的な活動であることが重要。
- ・自ら関わり興味をもつことで、その木が好きになり、誇りに思う。
- ・花見は地域内の交流の場として重要な役割を持つ。
外国人にとってはお酒を外で飲める貴重な場として提供できる。
- ・春以外の桜の木は厄介者扱いされることがあるが、払拭したい。
年中楽しむよう桜にちなんだ「食」でつながり強みがあると感じた。
- ・桜の木を使った机やペン立てを子どもたちが使うことで、愛着が沸く。
- ・和船で桜を眺めるなど、他所にないインパクトのあるイベントを開催できたらよい。
- ・スコップ1本で誰でもできる体験を通じて桜に触れ、桜を自分事にする。
- ・「桜守のいる町」はオンリーワンの要素で、桜守にあこがれを持てることは魅力。桜を通じた値打ちのある町になればよい。

5. その他

今後のスケジュールについて

事務局

(次第「5. その他」に基づき今後のスケジュールを説明)

6. 閉会